

第一外科

1. 附属病院における担当診療科

- (1) 消化器外科
- (2) 小児外科

2. 受け入れ身分

- (1) 医員
- (2) 大学院生

鳥取大学大学院医学研究科

(1) 医学専攻博士課程（病態制御外科学分野）（4年制*）

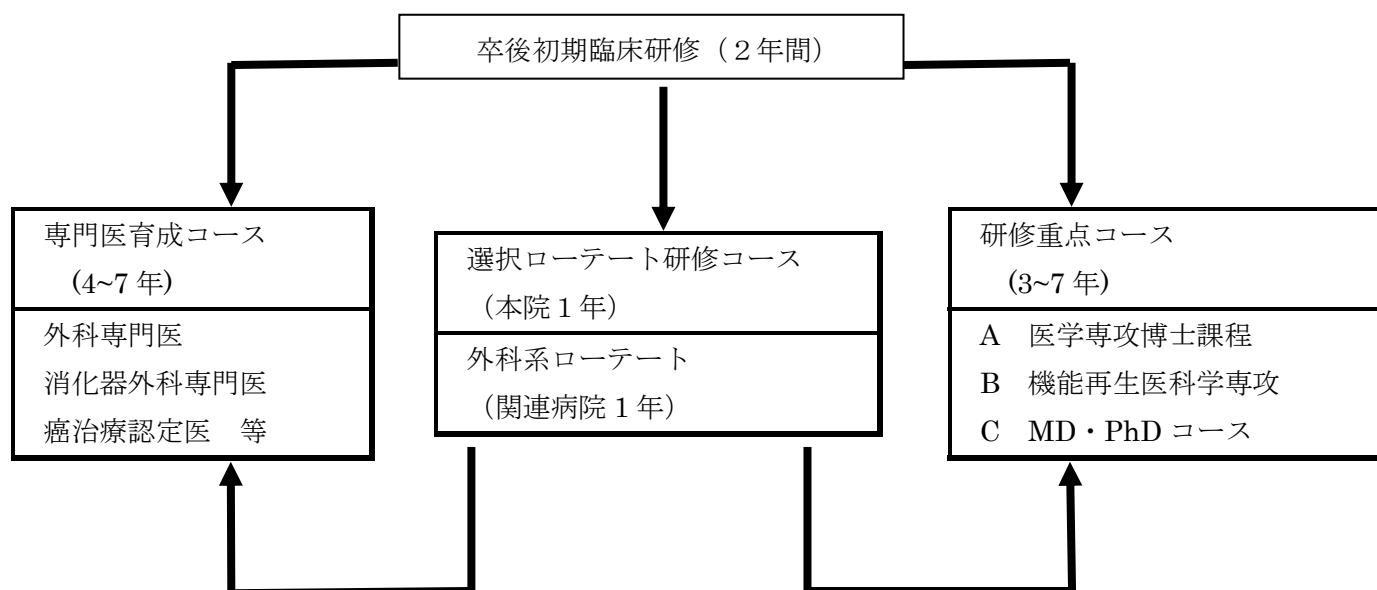
- ① 一般選抜
- ② 社会人特別選抜（本院医員または一般病院に勤務しながら入学可能）
*研究内容によっては、3年または3年半で修了可能

(2) 機能再生医科学専攻後期博士課程：遺伝子再生医療学講座（3年制**）

- ① 再生医療学分野
- ② 制御再建医学分野
**研究の内容によっては、3年で修了可能

[*、**の規定から、MD・PhD コースを修了すれば医学博士の学位と再生医科学博士の2つの学位を5~7年で取得することができる]

3. 初期臨床研修終了後の選択可能なコース



4. 専門医育成コース：選択ローテーション研修コースや研究重点コースを選択しても、専門医育成コースを修了することにより、医学博士の学位と各種専門医受験資格を取得することができる。

卒後年数

8		← 消化器外科専門医受験資格
7		
6		← 外科専門医認定試験（面接）
5		← 外科専門医予備試験（筆記）
4		
3		
2	卒後初期臨床研修（2年）	
1		

(1) 外科専門医：

- 1) 日本国医師国家試験合格者で、日本外科学会に「修練開始登録」を行ったものが対象となる。
- 2) 修練開始後満4年以上を経た段階で、予備試験となる筆記試験の受験資格を得る。
- 3) 修練開始後満5年以上を経た予備試験合格者は、最低手術症例数を充足した段階で、認定試験となる面接試験を受験することができる。
- 4) 卒後初期臨床研修期間満了後6ヶ月以内に修練開始登録した場合に限り、卒後初期臨床研修開始時まで遡って修練を開始したと見なす事ができる。
- 5) 必要手術症例

必要手術手技	350 例以上
術者としての経験	120 例以上
各領域の必要最低例数（術者、助手を問わず）	
消化管及び腹部内臓	50
乳腺	10
呼吸器	10
心臓、大血管	10
末梢血管（頭蓋内血管を除く）	10
頭頸部、体表、内分泌外科	10
小児外科	10
各臓器の外傷（多発外傷を含む）	10
鏡視下手術	10

(2) 消化器外科専門医：

- 1) 専門医申請資格は外科専門医であることが必須である。
- 2) 外科専門医取得後、最低3年の修練が必須である。
- 3) 修練は日本消化器外科学会が認定した施設で行わねばならない。
- 4) 筆頭者としての研究発表6件以上（論文3編以上を含む）必要。
- 5) 外科専門医取得後、日本消化器外科学会に1回以上、教育集会に2回以上の出席が必要。
- 6) 筆記試験、口頭試問を経て資格が与えられる。
- 7) 必要手術症例

術者として規定例数を含む 450 例以上の経験を必要とする		
手術難易度別必須手術症例	難易度	経験例数
	低難度手術	50
	中難度手術	50
	高難度手術	50
必須腫瘍手術症例	手術名	経験例数
	食道癌の手術	3
	幽門側胃切除	10（術者 5 例以上を含む）
	胃全摘	5（術者 2 例以上を含む）
	結腸癌の手術	10（術者 5 例以上を含む）
	直腸癌の手術	5（術者 2 例以上を含む）
	腸閉塞の手術	3（術者 1 例以上を含む）
	肝部分切除	3（術者 1 例以上を含む）
	肝 2 区域以上の手術	2
膵頭十二指腸切除	1	

(3) がん治療認定医申請資格

- 1) 外科専門医を有する。
- 2) 機構の定めるがん治療研修を終了し、指導責任者にする証明がなされていること。
- 3) 業績：学会発表 2 件以上、論文発表 1 編以上必要（業績基準に挙げてある学会、学術雑誌にかぎる）。
- 4) 20単位以上の学術単位が必要。
- 5) 機構が開催する教育セミナーに参加し、受講後に行われる認定試験に合格していること。

(4) 日本内視鏡外科学会技術認定医

- 1) 申請時に本学会会員であること
- 2) 外科専門医取得以後、2 年以上内視鏡外科の修練を行っていること。
あるいは消化器外科専門医であること。
- 3) 各領域の主要な内視鏡下手術を独立した術者として遂行できる技量を持つこと。
- 4) 本学会ならびに関連学会が主催する、あるいはこれら学会が公認あるいは後援する内視鏡外科に関する教育セミナーに参加していること。

5. 選択ローテート研修コース：本院で、上部消化管、下部消化管、肝・胆・膵、救急医療を各3ヶ月ごとでローテートする。その後、関連病院にて1年間外科を修練する。選択ローテート研修コース（1年）を経て専門医養成コース、研究重点コースに進むことができる。

6. 研究重点コース：研究重点コースを経て専門医養成コースに進むこともできる。

7. 診療分野ならびに特徴ある診療内容

(1) 消化器外科分野

- 1) 食道疾患（食道癌、食道破裂等）の外科治療
- 2) 胃疾患（胃癌、胃GIST、胃悪性リンパ腫、胃十二指腸潰瘍等）の外科治療
- 3) 小腸疾患（小腸腫瘍、小腸捻転等）の外科治療
- 4) 大腸疾患（大腸癌、大腸GIST、虚血性腸炎、潰瘍性大腸炎等）の外科治療
- 5) 肝疾患（肝臓癌、胆管細胞癌、肝血管腫等）の外科治療
- 6) 膵疾患（膵臓癌、膵嚢胞性疾患、膵炎等）の外科治療
- 7) 胆嚢、胆管疾患（胆嚢癌、胆管癌、胆管拡張症、胆石症等）の外科治療
- 8) 移植外科 肝硬変、肝炎、先天性肝疾患に対する生体肝移植手術
- 9) 消化管内視鏡、造影検査

術前の検査を本にした治療計画が立案できる。

消化器外科手術における合併症の重大性を理解できる。

各消化器外科の基礎と術前、術後管理を学ぶ。

術前、術後における患者、家族に対する病状説明が十分にできる。

術後の患者QOLについて基本的な理解ができる。

上記のことを目指します。

(2) 小児外科分野

- 1) 小児悪性腫瘍の外科治療
- 2) 単径ヘルニア手術
- 3) 新生児奇形性疾患の外科治療
- 4) 小児消化管内視鏡、造影検査

小児疾患の特殊性が理解できる。

母親と十分に意志疎通ができる。

(3) 癌化学療法の実践

(4) 癌免疫療法の実践（樹状細胞療法など）

(5) 緩和医療：末期癌患者に対する積極的疼痛緩和が実践できる。

8. 研究分野

(1) 癌ワクチン療法の研究

(2) siRNAを用いた癌遺伝子治療の研究

(3) 消化器癌における微小転移の研究

(4) 消化管切除後の患者QOL向上をめざした再建術式の研究

(5) 肝臓再生治療の研究

(6) 産学共同研究（フコイダンを用いた制癌剤副作用軽減試験）

(7) 多施設共同研究（大腸癌化学療法、胃癌化学療法における多施設研究）

9. 第一外科研修指定病院

研修病院	年間手術 件数	3~4年次外科 研修	7年次以降外科 臨床
益田赤十字病院（島根県）	443	○	○
浜田医療センター（島根県）	463	○	○
江津済生会（島根県）	248	○	○
松江市立病院（島根県）	281	○	○
鳥取大学医学部附属病院（鳥取県）	640	○	○
山陰労災病院（鳥取県）	590	○	△
博愛病院（鳥取県）	528	○	○
米子医療センター（鳥取県）	314	○	○
倉吉野島病院（鳥取県）	357	○	○
鳥取県立厚生病院（鳥取県）	350	○	○
鳥取県立中央病院（鳥取県）	453	○	△
鳥取赤十字病院（鳥取県）	640	○	○
公立八鹿病院（兵庫県）	389	○	○

10. 第一外科研修関連病院

隠岐島前病院（島根県）
 安来市立病院（島根県）
 尾崎病院（鳥取県）
 西伯病院（鳥取県）
 日野病院（鳥取県）
 日南病院（鳥取県）
 落合病院（岡山県）
 津山第一病院（岡山県）